

小城市立岩松小学校
学校だより 第 28 号



岩松小だより

令和 7 年 11 月 7 日発行
発行者 校長 真子靖弘

子どもの「自分で考える力」を育むために

10/29(水)、文部科学省から 2024 年度の問題行動・不登校調査の結果が公表されました。年間 30 日以上欠席した不登校の児童生徒は 12 年連続で増加し **35 万 3970 人**（うち小学生は **7 万 419 人**）、また小学校におけるいじめの認知件数も **61 万 612 件**と、いずれも過去最多となりました。子どもたちを取り巻くこの現状に、学校として改めて強い危機感を抱いています。



翌日の新聞に、小児科医で岐阜大学大学院教授の加藤善一郎氏の考えが掲載されていました。加藤氏は、授業中の「全員挙手」の強制や、授業開始 3 分前に着席し勉強を始める「3 分前学習」など、学校の中にあるさまざまな非公式ルールを「**かくれ校則**」と呼び、これが**不登校の大きな原因になっている**と指摘しています。

本校の学校だより第 26 号でも、「**細かすぎる『生活のきまり』が、子どもたちから『自分で考える機会』を奪ってはいないか**」という問題提起をいたしました。今回の加藤氏の指摘は、このことにも通じる非常に大切な視点だと受け止めています。

本校には、上記のような「全員挙手」の強制や「3 分前学習」といった「**かくれ校則**」はありません。しかし、私たち教職員が「**子どものためだから**」「**ずっとこうしてきたから**」と**良かれと思って行っている指導や習慣が、知らず知らずのうちに子どもたちの負担になったり、主体性を奪ったりしていないか**、今一度、冷静に見つめ直す必要があると痛感しています。

つきましては、「生活のきまり」の見直しと併せて、こうした**学校生活の中にある「当たり前」**についても、保護者の皆様、そして何より**子どもたち自身の意見にも耳を傾けながら**、一緒に考えていく機会を作っていきたいと考えています。

私たちが目指す最も大切な目標は、**子どもたちが自ら考え、判断し、行動できる「子どもの自律」を育むこと**です。この揺るぎない目標を達成するため、学校も変

わるべきところは変わっていかなければなりません。皆様のご意見もいただきながら、子どもたちにとってより良い学校づくりを共に進めてまいりたいと思います。



小城市学力向上研究大会 会場校として

11/5(水)、本校ならびに三日月小・中学校の 3 校を会場として、「小城市学力向上研究大会」が開催されました。本校も会場校として、日頃進めている校内研究について、研究内容の紹介と授業公開を行いました。



公開授業では、本校の**低学年代表として 1 年松組**、**高学年代表として 5 年松組**が、それぞれ算数科の授業を公開しました。当日は、市内の多くの先生方が参観に訪れる中、両クラスの子どもたちは、**日頃と変わらず落ち着いて、そして熱心に学習に取り組む姿**を見せてくれました。参観された先生方からは、子どもたちの真剣な学びの様子について多くのお褒めの言葉をいただくとともに、本校の研究に対する貴重なご意見・ご感想も多数頂戴いたしました。

今回の研究大会で得た学びを、今後のさらなる指導改善と、子どもたちの「**わかった！」「できた！**」という学力の向上につなげてまいります。



大切な行事に向けて、体調を万全に

11 月に入り、朝晩の冷え込みがぐっと強くなり、日中との気温差が大きい日が続いています。かぜなども流行りやすい時期です。

来週には、子どもたちが心待ちにしている**バス旅行**、そして**修学旅行**が控えています。この大切な行事を全員が万全の体調で迎えられるよう、ご家庭でも「**早寝・早起き・朝ごはん**」を改めて心がけ、**生活リズムを整えていただければ**と思います。

十分な睡眠と栄養で免疫力を高め、感染症の予防に努めてまいりましょう。

